

## 平成 27 年 6 月盛岡市議会定例会

# いわて国体推進特別委員会調査報告書

平成 27 年 6 月 30 日提出

最近は国体開催を機に、都市整備や施設整備を行うという傾向は影を潜め、財政的な負担を極力抑え、市民総参加によって成功させようとする方向へと変化してきました。

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会も、かつての国体開催から、変化をしてきた国体としての開催が求められています。

当いわて国体推進特別委員会に与えられた役割は、先述した状況やその変化を踏まえ、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の成功はもちろんですが、国体開催を通じて、スポーツの振興、観光や地域の活性化に資する大会をどのように準備段階から構成していくかということだと理解し、活動を続けてきました。

そのために、先催県の行政視察を実施すると同時に、岩手県、盛岡市における準備状況や課題についても、特別委員会を開催し、国体推進局から報告を受けてきました。また、競技会場の行政視察を実施し、整備状況などについて把握をしてきました。その調査結果について、次のとおり報告いたします。

## 記

### 1 国体の歴史

国民の間にスポーツを普及させ、国民の体力向上や体育の振興などを目的として、1946年、昭和21年、京阪神地域を中心に第1回国民体育大会は開催されました。その後、各都道府県持ち回りで毎年開催されてきました。第3回大会からは都道府県対抗となり、1961年からは、スポーツ振興法に定める重要行事として、日本体育協会・文部科学省・開催地都道府県が三者共催する国内最大のスポーツイベントとして、冬季・春季・秋季大会が実施されましたが、1998年には、開催予定の7県から大会の簡素化や効率化の要望書が提出されました。長期経済不況による自治体の財政問題や、スポーツの国際化によるトップアスリートの国体への不参加を初めとした課題を踏まえ、日本体育協会は、「国体改革2003」をまとめました。

2013年、平成25年に、同協会はそれまでの国体改革の指針としてきた「新しい国民体育大会を求めて～国体改革2003～」にかわる新しい指針として「21世紀の国体像～国体ムーブメントの推進～」を策定し、諸事業に積極的に取り組んでいくこととしています。

このような歴史を経て、昨年（2014年、平成26年）開催された長崎国体まで69回の歴史を重ねてきました。

## 2 いわて国体に向けた取り組みと課題

第71回国民体育大会は、完全国体として岩手の地で開催され、「広げよう感動。伝えよう感謝。」がテーマです。希望郷いわて国体は、2016年、平成28年1月27日から31日まで及び2月20日から23日まで冬季大会、10月1日から11日まで本大会、希望郷いわて大会は10月22日から24日まで開催されます。

1970年、昭和45年、第25回国民体育大会が岩手県で初めての国体として開催されました。大会テーマは「みんなの国体・のびゆく岩手」、スローガンは「誠実・明朗・躍進」。実施競技は、夏季大会4競技、秋季大会28競技。参加人員は、夏季大会約4,000人、秋季大会約17,300人という規模でした。

当時は、高度成長期のただ中ということもあり、国体開催県では都市の整備が行われるケースが多く見られました。岩手においても、国体に合わせて、県営体育館や県営運動公園が整備されました。また、盛岡から各国体会場まで約2時間30分以内で行けるように幹線道路が整備され、盛岡市においても、4車線の盛岡バイパスが舗装工事を待たずに全線開通しました。

現在、施設整備については、市立太田テニスコートの改修が終わり、冬季国体開催を照準に建設が進められてきたわけではありませんが、「盛岡市アイスリンク」も準備が進められています。心配された水泳競技会飛込プール仮設上屋工事も、委託受注業者の募集が開始されております。

課題は、最近の労務単価及び資材の高騰等による入札不調や工事の遅れであります。これは、競技会場に関する工事だけではなく、国体開催に合わせて整備が予定されている、盛岡駅東口・西口の交通改善なども含めた工事全般についてであります。後戻りの許されないものであることから、常に進捗状況を把握しながら、適切な対応が求められています。

### 3 施策の提言

#### (1) 本大会前までに再検証をせよ

希望郷いわて大会に関する会場の整備については、再度関係者や関係する団体の方々に、会場を見ていただき、率直な御意見を聞く必要を感じています。これまでも十分な対応をしてきているとは思われますが、再度の検証をお願いしたいと考えます。障がいを持った方々の盛岡に到着してから宿泊先までの交通手段、宿泊先から競技会場までの移動手段、競技会場における必要設備の状態など、検証の対象は多岐にわたると考えます。であるからこそ、再度の実施を要請します。

盛岡駅に到着してから宿泊先まで、宿泊先から競技会場までの交通の確保は重要な課題であります。移動は主にバスになると考えますが、その確保を確実にしていかなければなりません。交通渋滞対策も十分に検討される必要があります。競技運営をスムーズに行うためにも、来盛した選手団、役員団に不快感を与えないためにも、今後関係者や警察との連携を取っていくことが求められます。

もう一つは、競技会場の駐車場問題です。競技会場となる付近の市民からは、「大会が開催されるたびに、交通渋滞や違法駐車に悩まされている」との声が聞かれます。事前の周知や駐車スペースの確保、公共交通の充実と利用促進など、早い時期からの対応が必要であります。早く方向性を定めていくことが、問題を解決していく上で一つの有効な手段となります。重ねて言いますと、競技会場付近の市民の要望を実現することも、国体成功の大きな鍵となることを念頭に置くべきであります。

#### (2) 積極的な情報発信をせよ

これまで市民意識の盛り上がりを意識し、ポロシャツやピンバッチの販売を行ってきました。その都度市民のみなさんから聞かれることは、「どこで売っているの」「いつから売っているの」「まだ売っているの」「幾らするの」であります。市民への周知はしているとは思いますが、結果として、なかなか市民に伝わっていないという現実を直視し、改善するための一考をお願いしたいと考えます。

市民から聞かれる声は、「国体が見えない」「身近に感じられない」というものであります。時期的なものも関係しているかとは考えますが、情報の発信が不足していると捉えるべきであり、先述したことは、その一例であると思われれます。これから、準備が具体的に進んでくると、市民の目に国体が映ってくると思いますが、それを待つのではなく、大会

の成功を期する観点からもしっかり取り組んでいくべきであります。

さきの第 25 回国体は、みちのくの素朴な人情が好評を博したとされています。これが、今第 71 回国体でも大切にされるべきであり、いわゆる「おもてなし」であります。

### (3) おもてなしの心で盛岡らしさを前面に

#### ①花のまち盛岡

おもてなしの心で迎える。これはどこでも考えられていることであります。だとすれば、「盛岡らしさ」をその中に生かしていくことを考えていかななくてはなりません。きれいな花でまちを飾ることも考えられています。プランターに花を植え、まちを飾ることも準備されています。今後、会期が近づくとつれその確度は上がってくるものと考えますが、そこにどれだけの市民が参加してくれるかが形態としてではなく、内容による成功が隠されています。ハンギングバスケットも準備されていますが、これこそ盛岡らしさを象徴できるおもてなしの一つではないでしょうか。ビクトリア市との友好関係を生かした取り組みがあれば、来県した選手団にそれが伝われば、更に大きな効果を生み出してくれるのではないのでしょうか。

#### ②清潔感あふれるまち盛岡

花で飾るだけではなく、「きれいな盛岡」を感じてもらうこともおもてなしの大切な要素です。ごみのないまち、清潔感あふれるまちを市民の協力を得てつくっていくことも考えていく必要があります。

親切なまち盛岡をつくることもおもてなしの重要な要素と考えます。先述しましたが、さきの第 25 回国体で、みちのくの素朴な人情が好評を博したことに学ぶ必要を感じます。笑顔であいさつ、尋ねられたことに親切に対応することなどであります。競技会場や宿泊施設だけではなく、いわゆる、日常の中に親切をつくり上げることでもあります。送迎バスに笑顔で手を振ることも一つではないかと考えます。

#### ③親切なまち盛岡

親切は人だけが行うものではなく、来盛した皆さんが不自由を感じることなく、競技に集中できる環境を整えていくこともその要素ではないでしょうか。案内所の設置やわかりやすい表示板など、いろいろな角度から考察していくことが必要です。

#### ④食文化のまち盛岡

盛岡の食文化を味わってもらうこともおもてなしの一つではないでしょうか。盛岡冷麺，わんこそば，じゃじゃ麺の盛岡三大麺を中心に，素朴な郷土料理の提供は考えられていることではあります。問題は，それを可能な限り安価で提供できるかということです。行政としてもその必要性を認識しているのであれば，民間のみなさんと十分に協議をし，最善の方法を考え出してほしいと思います。

盛岡市のおもてなしの中心となるのは，玄関口である盛岡駅。それと各競技会場，宿泊施設であります。その場所によっておもてなしの形態は変わってしかるべきですが，その根底に温かい心があってほしいものであります。

#### (4) 歓迎方法に知恵を絞ろう

盛岡駅での選手団を歓迎する方法はこれから具体化してくるものと考えますが，横断幕やのぼり旗，近隣の子供たちが手に旗を振っての出迎えや，郷土芸能での出迎えも考えられていることでしょう。会場においては，地元の食材を使った郷土料理が振る舞われるのも一般的のようです。郷土芸能の披露も，第25回国体では行われています。市民の参加も意識した取り組みをしてほしいものです。

宿泊先では，どのような体制をつくるのかこれから関係する業者との間で決められるものと考えますが，「心温まる」を基本とし，しかし，あまり過度にならないように，選手団が自由に時間を過ごせる工夫も必要ではないでしょうか。

「希望郷いわて大会」については，以上のほかに障がいを持った方々が安心して移動できる，過ごせる，競技に集中できる態勢をつくっていくことが必要です。施設整備と合わせて関係者との協議を十分に重ねて万全の体制で臨んでいただきたいと思います。ボランティアの確保はその全ての前提条件となります。

これから準備が進んでいくと，いろいろな物の製作やアイデアが必要となってきます。先日，市役所にカウントダウンボードが設置されました。これは県立盛岡工業高校の生徒の製作によるものです。これからも大学や高校等，学校との連携を深めていく必要があるのではないのでしょうか。また，一般市民から募ることもよいのではないのでしょうか。秀でた才能を持っている方々が意外と近くにいるものです。

各県選手を歓迎，応援するのぼり旗の作成は，小学校にお願いするこ

とにより、手づくり感のある、素朴で心のこもったものになると思われ  
ます。

#### (5) 記録を残す

記録をどう残すのかも考えておく必要があります。記録を残すことは、  
単に「記録する」ことにとどまるものではなく、活用の仕方を工夫すれ  
ば、国体終了後のスポーツの振興に、あるいは市民が参加する、活動す  
る記録として役立つものと考えからず。また、記録する活動を市民  
や大学、高校、専門学校などに協力依頼することで、市民目線の記録と  
して、市民がつくった国体の記録として残すことが可能となります。

スポーツの振興を考慮すれば、小中学校児童・生徒の競技観戦はしっ  
かりとした対応をお願いしたいと考えます。既に計画されてはいますが、  
リハーサル大会を観戦することによっていろいろな希望や要望が出てく  
ることも考えられるので、集団での観戦という一つの切り口だけではなく、  
別のチャンネルも可能であれば考えてもらえないものでしょうか。

#### (6) 感謝の心をいかにあらわすか

東日本大震災の復興支援に感謝する気持ちをどのようにあらわすのか  
は、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の大きなテーマです。被災地  
では、いろいろな工夫を凝らした感謝を表現してくれるでしょう。その  
気持ちと連帯し、県都としてどのようにあらわしていくのかを考えてい  
かなければなりません。先述しましたが、玄関口である盛岡駅、競技会  
場、宿泊先、それぞれで考えられることがあれば最良ではないでしょう  
か。県が中心となって具体的な方向性を定めていくことが望ましいと思  
いますが、それにとどまるのではなく、県都盛岡として主体的な方向性  
を持つことが必要と考えます。被災地から感謝の気持ちをあらわした掲  
示物を掲出する、被災地の郷土料理を振る舞う、特産品の販売を行う。  
盛岡と被災地の子供たちの交流を通じて元気を取り戻していく姿を表現  
するなど、実際に交流を重ねてきた方の意見や、ボランティア活動を続  
けてきた方、派遣されている市職員からの意見など、幅広い声を集めそ  
の中から発見したものをまとめ上げていくことも一つの方法ではないで  
しょうか。それは同時に風化を防ぐことにもつながります。

## 4 結びに

この調査報告書をもって、当特別委員会の調査活動は終了となります。

国体推進局を中心に調査を重ねてきましたが、開催まで時間があることもあり、不十分な点を残さざるを得ません。当特別委員会の目的が、国体の成功はもちろんですが、大会の成功を通して、スポーツの振興、観光や地域の活性化を図っていくことであることを考えれば、まだまだ果たすべき役割は残されています。したがって、今回のまとめは一つの区切りとして慎重につくりましたが、残された役割を果たしていくために、次期改選後にも、「いわて国体推進特別委員会」と同じ役割を果たす、特別委員会設置の必要性を訴え、報告とします。